

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
文化財保護課	新谷 勝行

重点目標	6	歴史文化を活用し、郷土への愛着と誇りを育みます
基本の方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	<p>①京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育の導入にあわせ、「丹後学」を積極的に展開します。特に、ジオパークに認定された地質遺産を活用したフィールド学習を、小学生を対象に実施します。</p> <p>②子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。</p> <p>③文化財セミナーや京丹後史博士育成講座等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図ります。</p>
2. 文化財の保護と活用	<p>①市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新等を通して文化財の保全を図ります。</p> <p>②京丹後市史編さん事業での調査成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。</p> <p>③京丹後市デジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。</p> <p>④古代丹後を代表する網野桃子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡を整備し、活用することで郷土への誇りと愛着を培い、併せて古代丹後の輝かしい資産を観光資源としても活用します。</p>
3. 資料館施設の整備充実	<p>①市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。</p> <p>②児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。</p> <p>③郷土の歴史や文化財の調査を進め、貴重な資料を保管し後世に伝えます。</p> <p>④資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。</p>

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野桃子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野桃子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元の立場からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)				
①	京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育の導入にあわせ、「丹後学」を積極的に展開します。特に、ジオパークに認定された地質遺産を活用したフィールド学習を、小学生を対象に実施します。				
②	子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。				
③	文化財セミナーや京丹後史博士育成講座等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図ります。				
1	文化財保護啓発事業				
	市内に数多く残されている文化財や調査成果などを市民などに公開することで郷土の歴史や文化財について学ぶことのできる機会を提供し、その認識を高める。	-	-	-	統合(整理)

2. 文化財の保護と活用		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
①	市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新等を通して文化財の保全を図ります。					
②	京丹後市史編さん事業での調査成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。					
③	京丹後市デジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。					
④	古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡を整備し、活用することで郷土への誇りと愛着を培い、併せて古代丹後の輝かしい資産を観光資源としても活用します。					
2	市指定文化財等補助金	文化財保護課	2,000	2,000	2,000	現状維持
	文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。					
3	史跡等維持管理事業	文化財保護課	1,357	1,837	1,133	現状維持
	指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。					
4	遺跡整備事業	文化財保護課	13,301	27,659	31,174	拡大
	丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。					
5	遺跡整備事業【繰越】	文化財保護課	-	18,473	-	
	丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。					
6	遺跡発掘調査等事業	文化財保護課	4,331	6,031	4,419	拡大
	発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。					
7	遺跡発掘調査等事業【繰越】	文化財保護課	2,317	-	-	
	平成29年度より実施した途中ヶ丘公園陸上競技場整備計画に伴う途中ヶ丘遺跡の試掘調査を行い、その成果をまとめた報告書を刊行することにより文化財保護を図るとともに活用につなげる。					
3. 資料館施設の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
①	市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。					
②	児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。					
③	郷土の歴史や文化財の調査を進め、貴重な資料を保管し後世に伝えます。					
④	資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。					
8	郷土資料館管理運営事業	文化財保護課	5,981	6,865	3,132	拡大
	民俗資料等の収蔵・調査・公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。					
9	古代の里資料館管理運営事業	文化財保護課	9,529	12,656	59,601	拡大
	考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。					
10	指定管理施設運営事業	文化財保護課	8,505	8,488	8,488	現状維持
	琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。					
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業		決算額(単位:千円)			事務の改善	
事務事業名称・事業内容(実績)		担当課	H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
11	文化財保護審議会委員設置事業	文化財保護課	191	155	234	現状維持
	文化財の指定解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。					
12	文化財保護一般経費	文化財保護課	295	364	324	現状維持
	文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。					
		計	47,807	84,528	110,505	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本の方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。							
	目標指標	単位	計画作成時	実績値(現状)	目標値	年度	年度	年度
主な目標指標	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468 (5事業、17講座)	H25	1,459	R1	1,700	R6
	資料館、文化館入館者数	人	13,808 (3施設)	H25	13,163	R1	15,000	R6
	史跡整備	遺跡	6	H25	7	R1	8	R6
	文化協会加盟サークル数	団体	170	H25	151	R1	200	R6
	文化芸術事業の開催回数	回	-	R1	70	R1	100	R6
	京都府丹後文化会館利用者数	人	-	R1	28,896	R1	42,000	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本の方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK **ACT**

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	▲	<p>《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》 文化財セミナー(1回、100名)、京丹後史博士育成講座(8回、165名)、網野銚子山古墳発掘調査現地説明会(1回、166名)等の参加者のほか、高齢者大学・出前講座等の対応(31回、1,028名)があった。30年度末の実績値を上回ることができた。 今後、魅力ある講座や企画を打ち出し、目標値に近づけるようにしたい。</p> <p>《資料館、文化館入館者数》 開館2年目の郷土資料館は、開館記念無料開放を5月上旬まで実施した昨年度と比べ入館者数が大きく減少した。また丹後古代の里資料館、琴引浜鳴き砂文化館は、10連休のあった5月は入館者が増加したが、新型コロナウイルスの影響が出始めた3月の入館者数が減少したため、結果的に2館ともに入館者が減少した。 各館ともに、外的要因に打ち勝つような魅力ある企画を打ち出し、今後の集客増につなげていきたい。</p> <p>《史跡整備》 京丹後市史跡整備検討委員会の指導を得ながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、30年度より整備事業を進めている。 令和元年度は、検討委員会の指導を得ながら墳丘樹木の整理伐採、周濠の整備を行った。令和2年度以降も引き続き、環境整備事業を進め、令和5年度には完成予定である。</p> <p>《文化協会加盟サークル数》 各加盟団体が実施の教室や大会、市協会が実施の総合文化祭を通じて、市民のかたへ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援していく。</p> <p>《文化芸術事業の開催回数》 各地区文化祭、各町文化祭、文化協会総合文化祭、サークル体験、小町ろまん短歌大会、アーティスト・イン・レジデンス、文化芸術祭事業等例年通りの文化芸術活動が実施できた。 R2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の関係で多くの事業が中止となり目標数が減少する。</p> <p>《京都府丹後文化会館利用者数》 令和元年度は、2月までは例年通りの事業を開催できたが、2月・3月は新型コロナウイルス感染症の関係で事業中止となり利用者が減少した。 R2年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けるため、目標を下方修正する。</p>
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	京丹後史博士育成講座、文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応も行い、学習する機会の充実を図る。
	2	網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の補修、園路整備、周濠整備のほか、進入道路、駐車場等の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の前方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。
	3	丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	2,000千円	2,000千円	0千円	100.0%	(参考)当初予算額	2,000千円					
	目	06 文化財保護費											
	事	03 指定文化財等管理事業											
	細事	01 市指定文化財等補助金	主な財源										
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進												
目的	文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。												
主要な事務・事業の概要	<p>○京丹後市指定文化財等補助金 27件 2,000千円</p> <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国、府指定登録文化財補助金該当分 9件 1,081千円 ・京都府社寺等文化資料保全補助金該当分 18件 919千円 <p>(京丹後市指定文化財及び未指定文化財のうち補助要件を満たすもの)</p> <p>事業対象は神社・寺院建物の修理、覆屋・収蔵庫の修理、郷土芸能の道具の修理・新調、史跡の修理などで、事業費の総額は、24,781千円であった。</p> <p>※参考 平成30年度事業実績</p> <table border="1"> <tr> <td>補助件数</td> <td>14件</td> </tr> <tr> <td>補助金額</td> <td>2,000千円</td> </tr> <tr> <td>事業総額</td> <td>16,523千円</td> </tr> </table>		補助件数	14件	補助金額	2,000千円	事業総額	16,523千円					
	補助件数	14件											
補助金額	2,000千円												
事業総額	16,523千円												
				成果・課題	市内に数多く残る文化財の保全のために、修理等への補助金を交付することにより、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	1,837千円	1,851千円	14千円	99.2%	(参考)当初予算額	1,203千円				
	目	06 文化財保護費										
	事	03 指定文化財等管理事業										
	細事	02 史跡等維持管理事業	主な財源									
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進											
目的	指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。											
主要な事務・事業の概要	<p>○コウノトリモニタリング事業 133千円</p> <p>国指定特別天然記念物・コウノトリが市内3か所で営巣したため、モニタリング監視員を置き、観察・記録するとともに、巣周辺の立ち入り制限などの保護活動を行った。</p> <p>○史跡等草刈・環境美化委託 997千円</p> <p>史跡等用地の草刈、清掃等の維持管理を行った。</p> <p>神明山古墳、函石浜遺跡、赤坂今井墳墓、産土山古墳、郷村新層、旧口大野村役場、湯舟坂2号墳、竹野神社環境保全地区、高山12号墳、遠慮遺跡、黒部銚子山古墳、震災記念館用地、大谷古墳、浜詰遺跡、細川ガラシャ隠棲地、岡1号墳 計16件</p> <p>○指定文化財看板等修繕 592千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明板、標柱、案内看板等修繕 290千円 (遠慮遺跡、市指定文化財鹿野八幡神社、鳴き砂注意喚起) ・浜詰遺跡竪穴住居修繕(市指定史跡) 299千円 ・看板土地借上料(3か所) 3千円 				<p>○指定文化財関連施設管理経費 115千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷村新層、丹後震災記念館等の指定文化財施設の維持管理経費 90千円 火災保険料(旧口大野村役場、郷村新層、浜詰遺跡復元住居) 25千円 							
				成果・課題	○史跡や周辺施設等の環境整備を行うことにより、文化財の保全が図られ、文化財見学等の利用促進につながった。 ○課題として、指定文化財の案内看板等に未整備のものがあるため、適時整備を行い、来訪者の利便性向上と文化財の保護啓発を図る必要がある。							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	27,659千円	27,760千円	101千円	(参考)当初予算額	99.6%					
	目	06 文化財保護費										
	事	05 遺跡整備事業										
細事	01 遺跡整備事業	国補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(1/2)	13,255千円	市債	遺跡整備事業債(合併特例債)	12,100千円					
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源								
目的	丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。											
主要な事務・事業の概要	<p>国史跡網野銚子山古墳について、平成23年度策定の「網野銚子山古墳整備基本計画」に基づき、史跡の保存を図りつつ令和元年度分の環境整備工事を行った。整備工事は、条例に基づき設置した京丹後市史跡整備検討委員会、文化庁等関係機関の指導を受け実施した。</p> <p>併せて、平成27～29年度に実施した発掘調査について、整理報告を行い、発掘調査報告書を発刊した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡整備検討委員会 3回開催(7/1、7/31、1/31) ・発掘調査報告書 300部印刷 <p>○網野銚子山古墳整備事業費 27,659 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬 史跡整備検討委員会委員報酬(委員12人) 104 千円 ・賃金 発掘調査補助員賃金 620 千円 ・旅費 史跡整備検討委員会委員参集旅費、協議旅費 150 千円 ・需用費 整備事業事務消耗品費 30 千円 発掘調査報告書印刷製本費 198 千円 ・委託料 環境整備工事実施設計・監理委託料 4,098 千円 報告書図面作成委託料 484 千円 維持管理草刈委託料 665 千円 ・工事請負費 環境整備工事費 21,310 千円 整理伐採218本、墳丘裾復元盛土291㎡、周溝表示2,300㎡ほか 		成果・課題	史跡整備検討委員会の指導を受け、網野銚子山古墳の保存を図るための環境整備工事の一部を遂行できた。								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	18,473千円	20,280千円	1,807千円	(参考)当初予算額	91.0%					
	目	06 文化財保護費										
	事	05 遺跡整備事業										
細事	01 遺跡整備事業(繰越)	国補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(1/2)	8,858千円	市債	遺跡整備事業債(過疎対策債)	9,600千円					
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源								
目的	丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。											
主要な事務・事業の概要	<p>国史跡網野銚子山古墳について、平成23年度策定の「網野銚子山古墳整備基本計画」に基づき、史跡の保存を図りつつ平成30年度から令和元年度への繰越分の環境整備工事を行った。</p> <p>○網野銚子山古墳整備事業費 18,473 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託料 環境整備工事監理委託料 977 千円 ・工事請負費 環境整備工事費 17,496 千円 整理伐採419本、墳丘補修盛土4か所、周溝表示2,084㎡、丸太階段1か所設置ほか 		成果・課題	史跡整備検討委員会の指導を受け、網野銚子山古墳の保存を図るための環境整備工事の一部を遂行できた。								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	6,031千円	6,394千円	363千円	94.3%	(参考)当初予算額	6,249千円				
	目	06 文化財保護費										
	事	06 遺跡発掘調査等事業										
細事	01 遺跡発掘調査等事業	国補 府補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(1/2) 埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金(1/4)	2,550千円 1,275千円								
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源									
目的	発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。											
主要な事務・事業の概要	以下の発掘調査を実施し、開発事業計画に伴う調査の報告書を発行した。 ・整備事業に伴う調査：網野銚子山古墳(網野町) ・開発事業計画に伴う試掘調査：途中ヶ丘遺跡(峰山町)、太田古墳群(弥栄町)、女城跡(弥栄町)、加悦岡遺跡(久美浜町)、浜詰遺跡(網野町)		<ul style="list-style-type: none"> ・途中ヶ丘遺跡(現地調査 平成31年4月15~17日、令和元年9月20~25日) 工事計画範囲は公園造成時の盛土の範囲内であることを確認した。 ・太田古墳群(現地調査 令和元年5月9日~6月4日) 13~16号墳を調査。外表施設はなく既に全壊状態であった。 ・女城跡(現地調査 令和元年5月17日) 調査を実施した2か所のうち1か所で表土直下に地山が存在し、遺構面が浅い場所に位置する可能性が高いことを確認できた。 ・加悦岡遺跡(現地調査 令和元年11月5~15日) 遺跡隣接地7か所の調査を実施。既知の遺跡のすぐ北側で地山を確認し、他の調査箇所では河川堆積層がみられた。遺跡範囲の変更なし。 ・浜詰遺跡(現地調査 令和2年2月17~21日) 3か所の調査を実施。攪乱直下の砂丘堆積が厚く遺構確認できず。 									
	○発掘調査等経費 6,031 千円		<ul style="list-style-type: none"> ・賃金 発掘調査補助員賃金 2,947 千円 ・旅費 協議旅費 11 千円 ・需用費 発掘調査消耗品、発電機ガソリン代、器具修繕料等 333 千円 ・役務費 し尿汲取手数料 4 千円 ・委託料 作業員人材派遣委託料 1,209 千円 図面作成委託料 728 千円 ・使用賃借料 重機借上、発電機借上、仮設トイレ借上等 586 千円 ・備品購入費 発掘調査用カメラ(1台)・記録メディア購入 213 千円 									
<調査期間及び成果>		<ul style="list-style-type: none"> ・網野銚子山古墳(現地調査 令和元年5月21日~令和2年2月14日) 墳丘斜面から良好な状態の墓石を確認、墳丘テラス面には樹立したままで残る埴輪列と礎礎を検出し、古墳の前方形の大きさ・形状を復元する手がかりが得られた。 										
成果・課題			<ul style="list-style-type: none"> ○網野銚子山古墳の発掘調査では、残りの良い遺構を確認することができ、今後の整備や古墳の詳細な復元につながる知見を得た。 ○開発に伴う試掘調査では、遺跡の範囲や残り具合を確認でき、今後の開発事業との調整を行うための資料を得た。 									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	6,865千円	7,075千円	210千円	97.0%	(参考)当初予算額	7,459千円				
	目	04 資料館費										
	事	01 郷土資料館管理運営事業										
細事	01 郷土資料館管理運営事業	使用料	郷土資料館入館料	23千円								
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源									
目的	民俗資料等の収集・調査・公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。											
主要な事務・事業の概要	豊富に残る市所蔵の民俗資料、古文書・典籍・書籍等を適切に保管・公開するとともに、普及啓発事業として「むかしの装い展」、「こどもの節句展」等の企画展示や、体験イベントとして「郷土資料館まつり」を実施した。あわせて高圧の電気設備を低圧電力へ変更する工事を実施した。 令和元年度入館者数822人(平成30年度入館者数1,684人)※開館記念無料開放を実施した平成30年度の4・5月と比べての減少、令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症の流行による小学校利用の減少等により、入館者が減少した。		<ul style="list-style-type: none"> ○郷土資料館電気設備低圧変更工事 3,743 千円 <ul style="list-style-type: none"> ・工事設計委託料 670 千円 ・工事請負費 3,073 千円 ○体験用経費 18 千円 <ul style="list-style-type: none"> ・報償費(郷土資料館まつり謝礼) ○備品購入費(ノートパソコン1台) 89 千円 <ul style="list-style-type: none"> ※パソコンOSのサポート終了による更新 									
	○人件費 1,074 千円		<ul style="list-style-type: none"> ・臨時職員賃金(1人) 1,071 千円 ・労災保険料 3 千円 									
○維持管理費 1,941 千円		<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費 888 千円 ・消耗品費、燃料費 263 千円 ・通信運搬費等 80 千円 ・機械整備委託料 83 千円 ・施設管理委託料(浄化槽維持管理、電気設備保守管理等) 331 千円 ・修繕料(消防設備不良修繕等) 82 千円 ・保険料(火災保険) 53 千円 ・その他管理経費(コピー機リース料、テレビ受信料) 161 千円 										
成果・課題			<ul style="list-style-type: none"> ○市内小学校3年生の社会科見学の受け入れを行い、実物に触れながら学ぶ等の工夫を行うことで学習効果の向上につなげた。 ○今後、収集資料の調査・整理を進めるとともに、常設展示の配置や展示資料の解説内容などを工夫、改善していくことが必要である。 									

予備科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	12,656千円	13,072千円	416千円	96.8%	課	文化財保護課				
	目	04 資料館費						(参考)当初予算額				
	事	02 古代の里資料館管理運営事業					15,561千円					
	細事	01 古代の里資料館管理運営事業	主な財源	使用料 古代の里資料館入館料 499千円 諸収入 古代の里資料館物品販売代金 19千円 諸収入 古代の里資料館陶芸教室実習料 155千円 諸収入 古代の里資料館書籍販売代金 156千円 市債 社会教育施設整備事業債(過疎対策債) 2,800千円								
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進											
目的	考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関する住民の関心を高める。 考古資料・美術工芸品等を適切に保管・公開し、文化財の保護、普及啓発を図るため、「京丹後市内の学校所蔵資料1・2」、「細川ガラシャ隠棲地」、「新収蔵品展」等の企画展示を開催したほか、夏休み期間の市内小学生入館無料を実施した。 また施設・設備等の劣化に伴う改修工事の実施設計を行った。 令和元年度入館者数2,821人(平成30年度入館者数3,259人)※3月実施の「古代の里まつり」を翌年度に延期したこと、新型コロナウイルス感染症の流行の影響等により、入館者数が減少した。											
主要な事務・事業の概要	○人件費 5,750千円 ・資料館長報酬、共済費、費用弁償 2,415千円 資料館長報酬 166,500円×12か月=1,998千円 ・臨時職員賃金、共済費 3,335千円 臨時職員(3人)の賃金と社会保険料等事業主負担分		○維持管理経費 3,974千円 ・光熱水費 1,185千円 ・消耗品費、燃料費、印刷製本費 307千円 ・通信運搬費等 160千円 ・機械警備委託料 85千円 ・施設管理委託料(浄化槽維持管理、電気設備保守管理等) 453千円 ・修繕料(浄化槽、高圧交流負荷開閉器等) 1,185千円 ・土地借上料(2,915㎡) 303千円 ・保険料(火災保険) 28千円 ・その他経費(清掃用具借上、IT-機リ-ス、資料借用旅費等) 50千円 ・備品購入費(パソコン2台) 218千円 ※パソコンOSのサポート終了による更新									
	○体験用経費 101千円 ・原材料費(勾玉作り材料及び陶芸体験用材料) 74千円 ・報償費(窯焼謝礼) 27千円		○普及啓発事業として考古・歴史資料を紹介する企画展示等を開催し、文化財の普及啓発を図った。 ○市内小中学校の歴史や「丹後学」の授業での活用により、児童生徒の地域の歴史に関する知識を深め、関心を高めることができた。今後もより多くの小中学校の利用を勧めるための工夫が必要である。 ○開館から20年以上が経過し、屋内外の設備の計画的な更新等が今後の検討課題である。									
	○空調設備等改修工事設計委託料 2,831千円											

予備科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	8,488千円	8,488千円	0千円	100.0%	課	文化財保護課				
	目	04 資料館費						(参考)当初予算額				
	事	03 資料館等指定管理運営事業					8,436千円					
	細事	01 指定管理施設運営事業	主な財源									
基本計画	05 次世代への美しい自然環境の継承											
目的	琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。											
主要な事務・事業の概要	鳴き砂や環境保全の学習施設として設置し、指定管理者制度により、地元の掛津区が管理運営を行っている。環境学習のための教育施設であるとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する観光施設としても重要な拠点と位置付けられている。 令和元年度入館者数9,520人(平成30年度入館者数9,787人)											
	○委託料 7,200千円 指定管理者の管理運営に伴う指定管理委託料 ○使用料及び賃借料 1,288千円 建物の所有者である公益財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料及び駐車場用地賃借料		○各種視察受け入れやジオパーク関連事業、ガイド事業への支援・協力などを行い、京丹後市を代表する自然系の展示施設としての役割を果たした。 ○リピーターを含む市内内外の利用者獲得へ向け、展示内容のリニューアル等の検討を進めるほか、施設修繕を計画的に実施し、市の施設として適正な運営に努める必要がある。									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	155千円	235千円	80千円	65.9%		
	目	06 文化財保護費				(参考)当初予算額		
	事	01 文化財保護審議会委員設置事業				235千円		
	細事	01 文化財保護審議会委員設置事業	主な財源					課
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	文化財の指定解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。							
主要な事務・事業の概要	○文化財保護審議会の開催経費 79千円 文化財指定、市指定文化財の管理・現状変更に関する事項や、文化財関係事業等を検討するため、審議会を開催した。委員定数10人。 ・報酬 半日×2回(4千円×17人・回) 68千円 ・費用弁償 11千円 ○両丹文化財保護連絡協議会への参加経費 76千円 令和元年度は福知山市で開催(令和元年10月30日) ・報酬 協議会出席:1日×8人(7千円×8人) 56千円 ・費用弁償 19千円 ・普通旅費 1千円							
			成果・課題	○文化財関係事業について、審議会委員の意見を聞きながら進めることができた。 ○新たな文化財指定について審議を行うとともに、次年度の指定に向けて、諮問を受け審議を行うことができた。 ○両丹文化財保護連絡協議会へ参加し、各市町間での報告や意見交流を行うことにより、委員の研鑽を積むことができた。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	364千円	397千円	33千円	91.6%		
	目	06 文化財保護費				(参考)当初予算額		
	事	50 文化財保護一般経費				397千円		
	細事	01 文化財保護一般経費	主な財源					課
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。							
主要な事務・事業の概要	○文化財関係加盟団体経費 70千円 京丹後市が加盟する文化財関係団体負担金 ・全国史跡整備市町村協議会 40千円 ・全史協近畿地区協議会 10千円 ・全国鳴き砂ネットワーク 20千円 ○文化財収蔵施設維持管理費 77千円 資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費(成路分校、十楽倉庫、旧三重保育所、丹後震災記念館) ・光熱水費 36千円 ・火災保険料 17千円 ・草刈委託料 22千円 ・廃消火器処理手数料 2千円							
	○一般事務経費 217千円 ・消耗品費 37千円 ・旅費(史跡整備市町村協議会会議出席等) 180千円		成果・課題	文化財保護事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保護と活用を図ることができた。				